

論文の内容の要旨

論文題目 砂場における幼児同士の遊びの特徴と過程の検討

氏 名 箕輪 潤子

幼稚園や保育所等の幼児教育施設に設置されている砂場は、幼児の育ちにとって重要な保育環境であると言われている。幼児は砂場において、砂という素材や砂場という空間の性質を生かして遊びを展開しており、幼児同士の相互作用も砂場に独自の特徴を持つと考えられる。本研究の目的は、保育所や幼稚園等の砂場において、どのように幼児同士が砂や砂場という場や空間とかかわりながら遊びを展開しているのか、その特徴と過程について学年や時期による違いを明らかにすることである。

本論文は4部8章で構成されている。

第I部第1章では、砂場が保育環境であることを踏まえた上で、幼児同士の遊びにおける物や場に関する先行研究をごっこ遊びと積み木遊びを中心に概観してから、砂遊びや砂場での遊びに関する先行研究の課題、砂場における幼児同士の遊びの特徴や過程を捉えるための視座を示した。また、砂場で遊ぶ幼児同士の相互行為を捉える理論的視点としての「共同注意」について述べると共に、砂場の幼児同士の遊びの特徴を捉える分析視点として、Garvey(1977/1980)が提示したごっこ遊びのやりとりに含まれる要素と、幼児同士の相互作用の過程を捉える分析視点として、注視や身体の位置取りについて述べた。

そして先行研究の課題を踏まえ、① 砂場での遊びと砂(素材)と場(地面・空間)との関係 ② 砂場での遊びにおいて幼児同士がやりとりをしている要素の特徴 ③ 幼児同士の相互作用や砂の状態の変化によって展開する遊びの過程 ④ 幼児同士がやりとりしている要素の特徴や遊びの展開過程の学年・時期別特徴の4点を明らかにすることを本研究の研究課題として導出した。この課題を受け、第2章では、上記課題を明らかにするための方法について検討した。都内私立保育所1園、都内国立大学

附属幼稚園1園，全国の私立幼稚園・認定こども園24園の砂場で，3・4・5歳児クラスの幼児が好きな遊びをする時間に遊ぶ様子を，各章の目的に応じて観察や記録を行ない，事例の検討を行うことについて述べた。

第Ⅱ部第3章では，都内私立保育所の3・4・5歳児クラスの幼児78名のうち砂場で遊ぶ幼児を対象に，自然観察法に基づく参与観察を行ない収集した記録から，22事例を分析した。まず，砂や場との関わり観点から遊びを分類した結果，砂を集めたり砂で形を構成したりする「砂（素材）での遊び」と，枠で囲まれた空間や構成したものを使う「場（空間）での遊び」があることを示した。また，「砂での遊び」には，砂や場にかかわる行為との関連で「砂を《集める》遊び」「砂で形を《構成する》遊び」「構成物や空間を使う遊び」，それらの中間に位置づく遊びとして，砂を「〈容器などに入れる・形にする〉遊び」「（山や穴を）〈地面に構成する〉遊び」があることを述べた。幼児同士のやりとりに含まれる内容については，Garvey（1977/1980）がごっこ遊びのやりとりに含まれる内容として述べた「プラン」「役割」「物・状況設定」を分析の視点として事例検討を行った。結果，ごっこの「プラン」に関するやりとりは行われても「役割」についてはやりとりがみられないことがあるなど，室内でのごっこ遊びとは異なる特徴がみられた。一方で，砂の状態を変化させたり構成することに関する「プラン」や，構成に必要な行為を「役割」として分担するなど，砂で構成することについてのやりとりがあることを示した。

第Ⅱ部第4章と第5章では，都内国立大学附属幼稚園の3・4・5歳児クラスの幼児150名のうち砂場で遊んでいた幼児を対象に，自然観察法に基づく非参与観察を行ない，2人以上の幼児が遊ぶ場面について，①砂にかかわる行為の特徴を検討した上で，②幼児同士のやりとりの要素の特徴について，学年ごとに事例の分析を行った。

第4章では「砂を容器に入れる・形にする」遊び9事例を検討した。砂に関わる行為は，3歳児では砂を型や容器に「入れる」「形を抜く」，4歳児では「入れる」以外に「振る」「混ぜる」「つぶす」などごっこのふりと関わる行為が，5歳児では，砂の粒子を細かく「分ける」など砂の質感を変える行為がみられた。幼児同士の相互作用に含まれる内容については，料理がテーマの場合，言葉で見立てを伝える様子が見られたが，ごっこに関する「役割」に関するやりとりは4歳児で1事例見られただけであった。一方で，砂で構成することに関するプランや役割はどの学年でも見られ，3歳児は他児の行為により自分の行為や使う道具を変える姿が見られた。4歳児は自分がしていることをこれでいいか確認したり，相手に道具や砂などを渡したりする姿が見られた。5歳児は，作り方を言葉で確認しあう様子が見られた。

第5章では，「地面に構成する（山作り・穴掘り）」遊び18事例（山作り9事例・穴掘り9事例）に

ついて、山作りと穴掘りごとに検討した。結果、地面に構成する遊びにおける、砂に関わる行為や使用している道具については、3歳児は砂を集めたり感触を感じたりすることを繰り返す過程で、地面の形状の変化に気づくことで「掘る」「積む」行為が誘発されていた。4歳児は構成に必要な基本的な行為である「掘る」「積む-固める」を行う中で、道具の使い分けや操作の工夫をしていた。5歳児は「掘る」「積む-固める」という基本的な行為を組み合わせ、穴を掘ると同時に山に砂を積む様子がみられた。そして、幼児同士の相互作用に含まれる内容については、3歳児は他児の行為を模倣し自らの行為として取り込もうとする、4歳児は役割の分担を行ったり自分の行為が遊びの目的に沿っているかを他児の行為を見て確認したりする、5歳児は複数のものを構成する際に場所や行為の分担を行うといった特徴が見られた。

第Ⅲ部第6章・第7章では、幼児同士が砂場で砂の変化や他児の砂に関わる行為への注視を通して遊びを展開していく過程について、学年・時期別の特徴を検討した。全国の私立幼稚園・認定こども園24園の協力を得て、3歳児・4歳児・5歳児が好きな遊びをする時間に砂場で遊んでいる映像を撮影してもらった。

第6章は、「砂を容器に入れる・形にする」遊びに焦点を当てて検討した。結果、砂場の空間における幼児の身体の位置や向きについては、全ての学年・時期に共通して、砂場の端や枠の近くを拠点として幼児同士は横に並ぶか向かい合っていることが多かった。他児や砂の変化を見ることで生じる行為の変化については、3歳児Ⅰ期（4月～8月）は、他児の行為や道具に視線を向け模倣する様子が、Ⅱ期（9～12月）には他児と自分がしていることを比べる姿がみられた。4歳児Ⅰ期には、他児に自分がしていることを説明しようとする様子が、Ⅱ期には他児の表情を見て相手の意図を読み取ろうとする姿がみられた。5歳児Ⅰ期は砂に関わる行為をお互いに見合ったり説明したりする様子が、Ⅱ期には、他児の行為を見てしてほしいことを説明したり頼んだりする様子がみられた。低学年の幼児に比べて高学年の幼児は、他児の行為や表情から意図を読み取ろうとしたり言葉で構成する過程のイメージを共有したりしていることを示した。

第7章では、「地面に構成する」遊びに焦点を当てて検討した。結果、砂場の空間における幼児の身体の位置や向きは、学年・時期に関係なく共通して、穴が1つまたは近い場合は向かい合ったり横に並んだりする傾向にあった。水路や道などを水平に掘る場合は、水路が長くなる方が個々に自分で掘る場所を移動し、自分が掘りやすい方向に身体を向けていた。3歳児Ⅰ期では、水を使わない場合、他児の道具や操作を模倣する姿がみられ、水を使う場合は、水により砂や穴の状態の変化を注視する様子がみられた。Ⅱ期には、他児と同じ道具を使おうとしたり、他児の行為による砂の変化を注視する様子がみら

れた。4歳児Ⅰ期は、水の流れた先を他児と一緒に見て、水の流れの先を掘って新たな水路を作って水を流そうとする様子がみられ、Ⅱ期は水が流れた先だけでなく水が溜まっていて動かないところを注視していた。5歳児は、Ⅰ期・Ⅱ期ともに、構成するものが複雑になり、場所を分担して掘る様子がみられた。さらに、Ⅱ期は、共有する目的や自分がイメージする遊びの展開から逸れた行為を他児が行なった際に、ずれを修正しようとする姿が見られた。低学年の幼児に比べて高学年の幼児は、他児の行為をみながら自分の行為を変えようとする様子が見られると共に、他児とどのように掘るのかを確認しながら穴を掘ろうとしていることを示した。その一方で、3歳児と5歳児で、他児の行為よりも、砂の状態の変化に沿って自らの行為を変えようとする様子がみられた。

第Ⅳ部第8章総合考察では、第Ⅱ部と第Ⅲ部で明らかになった知見を整理すると共に、本研究の意義と課題を示した。本研究の結果と意義として、①砂場における幼児同士の遊びには、ごっこ遊びと共通する要素とごっこ遊びにはない砂での構成に関わる要素があることを示した。また、砂に対してどのように行為を行えばよいかという理解が、他児との相互作用や役割分担にも関わっていることを示唆した。②砂場における幼児同士の遊びの過程について、学年・時期別にその特徴を明らかにした。学年・時期が高いほど、他児と一緒に遊ぶ際に参照する対象が増え、幼児の砂という素材に対する認識は、形や質感が変わるものから、形や質感を変えられるものへと変わっていくことを示した。また、他児の砂に関わる行為から行為の意図を読み取り、自分の行為を判断することや役割分担につながることを示した。③砂場の枠や構成物は、幼児同士が近くで安定的に遊びを維持し、お互いの行為に視線を向ける媒介となっていることを示した。最後に理論的な課題として、幼児が砂場で遊んだ後の痕跡から生成する遊びに着目した検討、「構成物・空間を用いる遊び」における相互作用についての検討、環境の違いによると幼児同士の相互作用についての検討、保育者の砂場についての考え方や援助についての検討が必要であることを述べた。また、方法論的課題として、縦断的な検討、言語的な側面からの検討が必要であることや、本研究の観察や記録方法についての限界について述べた。